

緊急消防援助隊情報

平成29年度地域ブロック合同訓練の実施結果

広域応援室

九州ブロック 佐賀県実行委員会

平成29年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練は、「実災害に近い訓練想定」、「関係機関との連携」、「PDCAサイクルを重視した訓練の展開」を主眼に、次のとおり実施しました。

1. 実施日

平成29年11月11日（土）、12日（日）

2. 実施場所

佐賀県 武雄市、佐賀市、嬉野市

3. 実施内容

(1) 訓練想定

平成29年11月11日（土）午前4時00分頃から県内全域で雨が降り始め、武雄市、佐賀市及び嬉野市では、局地的に強い雨となり、午前4時30分には同市に大雨警報が発表されました。この状況の中、同日午前9時00分、佐賀平野北縁断層帯を震源とするM7.5の地震が発生し、武雄市で震度6強、佐賀市及び嬉野市で震度6弱を観測しました。さらに、同日午前9時20分には、先の地震に連動する地震が発生し、この地震により有明海沿岸全域に津波警報が発表されるとともに、最大3.5メートルの津波が到達し、各地で甚大な被害が発生しました。また、局地的な豪雨となっている武雄市の山間部では、土砂災害が発生しました。この地震、津波及び土砂災害により、被害が甚大であり、一部の地域では火災が発生しました。なお、被害の全容は把握されておらず、更に、被害が拡大する模様でした。

(2) 被災地初動対応訓練

想定地震発生後に、県庁に県災害対策本部及び消防応援活動調整本部を、佐賀広域消防局及び杵藤地区広域市町村圏組合消防本部に指揮本部及び指揮支援本部を設置し、緊急消防援助隊の応援要請に係る情報伝達、受援調整及び部隊活動調整を行う図上訓練を実施しました。

《今後の課題》

- 図上訓練と部隊進出訓練を連動させて実施しましたが、それぞれの訓練の間に大きな時間差が生じ、訓練の進行に支障をきたしました。
- 指揮支援部隊に対して、地図を活用した地理情報、

緊急消防援助隊動態情報システム及び支援情報共有ツールを活用した被災状況、部隊展開等の情報を共有することができませんでした。

(3) 【訓練1日目】部隊進出訓練、統合機動部隊による部隊運用訓練、夜間偵察・情報収集訓練

県内3か所を進出拠点とし、管轄消防本部における受援対応訓練を実施しました。統合機動部隊は県大隊とは別に先遣出動し、佐賀県消防学校及び南永野地区採石場跡地理立地サテライト会場において部隊運用訓練を実施しました。また、日没後、翌日の訓練会場である大同メタル佐賀株式会社敷地内においてドローンを使った夜間偵察・情報収集訓練を実施しました。

《今後の課題》

- 統合機動部隊の進出はスムーズでしたが、過去の災害における検証結果によると、被災地に入るまでの移動ルートを選択に大変苦慮したと課題が挙げられていたため、走行できないルートを付与し、より実践的な訓練が必要だと思いました。



夜間偵察・情報収集訓練（大同メタル佐賀株式会社敷地内）

(4) 【訓練2日目】部隊運用訓練

指揮支援部隊長の管理の下、関係機関と連携して訓練を実施しました。

特に、津波倒壊家屋救出訓練では、現地合同調整所を設置し、緊急消防援助隊、自衛隊、警察、消防団及び九州救助犬協会が連携して救助に当たりました。

また、消防団が全ての部隊運用訓練に参加し、初動情報収集訓練を実施しました。



《今後の課題》

- 現地合同調整所において活動エリア、活動内容等について自衛隊、警察、消防団及び九州救助犬協会と情報共有及び活動調整を実施することとしていましたが、訓練計画が不十分であり、被害状況や想定を現示することができませんでした。
- 過去の災害において災害現場への進出に苦勞したという意見が挙げられていたため、2日目の訓練会場である大同メタル佐賀株式会社敷地内では、災害現場直近までの車両進入を規制し、資機材を徒手にて搬送する訓練を実施しました。



現地合同調整所（大同メタル佐賀株式会社敷地内）



車両進入規制及び資機材挙手搬送（同上）

（5）後方支援活動訓練

訓練会場と宿営地を別会場とし、後方支援活動訓練を実施しました。

また、受援消防本部では、危険物仮貯蔵・仮取扱所を設置し、宿営地において燃料補給訓練を実施しました。

《今後の課題》

- 燃料補給訓練を実施しましたが、燃料補給車の具体的な運用手順について、当該車両を保有する消防本部だけでなく、県下消防本部と協議し、検討する必要があります。

あると思いました。



危険物仮貯蔵・仮取扱所（北方運動公園）

4. おわりに

今回の訓練では、九州各県の緊急消防援助隊のほか、自衛隊、警察、DMAT、国土交通省九州地方整備局、九州災害救助犬協会等多数の関係機関に参加いただきました。災害時における安全、確実、迅速な活動には、関係機関との連携が不可欠であり、本訓練を通じて関係機関と連携できたことは大きな財産になりました。

また、今回の訓練を実施するにあたり、県内消防本部はもとより地元消防団が実行委員会に参画したことで、人員の動員や資機材の提供等、運営面においても非常に円滑に進められました。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました九州ブロック各県、各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。



中部ブロック 岐阜県運営協議会

平成29年度緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練は、緊急消防援助隊の出動体制の検討、技術の向上及び自衛隊、警察、JMAT、DMAT、消防団等関係機関との連携強化を図るとともに、消防応援活動調整本部を主軸とした岐阜県及び被災市町村の受援体制の向上を目的とし、岐阜県中津川市をメイン会場に実施しました。

1. 実施日

平成29年11月17日（金）、18日（土）

2. 実施場所

岐阜県 中津川市、多治見市、恵那市、瑞浪市 岐阜市

3. 実施内容

(1) 訓練想定

岐阜県中津川市阿寺断層において地震が発生し、岐阜県東濃地方では震度6弱を観測しました。

この地震により岐阜県東濃地方では建物が倒壊し、多数の負傷者が発生しました。また、橋脚の倒壊や道路の寸断により中山間地域が孤立しました。さらに、中津川市では複数の建物で火災が発生し、県内の消防力では対応が困難なため、緊急消防援助隊の応援を受けることとなりました。

4. 図上訓練

想定地震発生後に、岐阜県庁に災害対策本部及び消防応援活動調整本部を、中津川市消防本部と多治見市消防本部に指揮本部及び指揮支援本部を設置し、緊急消防援助隊の応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び部隊活動調整について、ブラインド型の図上訓練を実施しました。

《今後の課題》

- 受援経験のない岐阜県では、緊急消防援助隊の受入調整や消防応援活動調整本部の運営に関する経験不足から具体的な役割や手続き等をまとめたマニュアルを整備する必要があると感じました。



- 緊急消防援助隊の制度の理解、緊急消防援助隊動態情報システム及び支援情報共有ツールの使用方法を習熟するために、研修や訓練を実施する必要があると感じました。

5. 実動訓練

(1) 参集訓練及び受入訓練

県庁及び被災地消防本部では、ヘリコプターにより参集してきた指揮支援部隊の受入れを実施しました。また、県内2か所を進出拠点とし、管轄消防本部による受援対応訓練を実施しました。また、統合機動部隊は被災地進出時の情報や調整本部、指揮支援本部等からの指示を電話、緊急消防援助隊動態情報システム及び支援情報共有ツールを活用し、後続する県大隊へ情報共有を行いました。

《今後の課題》

- ブラインド型の参集訓練であったため訓練当日に進出拠点を付与する予定としていましたが、高速自動車道の通行料を予算計上する必要があることから、ブラインド型で参集訓練を実施するのは困難でした。

(2) 部隊運用訓練

指揮支援部隊長の管理の下、地震被害を想定した各種訓練を関係機関と連携して実施しました。

訓練1日目は、瑞浪市で中層建築物救助救出訓練及び毒劇物漏洩災害対応訓練を、恵那市で中高層建築物火災防御・救出訓練、座屈・ガレキ救出訓練及び中洲救出訓練を、中津川市で土砂埋没事故救出訓練を実施しました。



座屈建物救出訓練（馬籠ふれあい広場）

訓練2日目は、中津川市で中高層座屈建物救出訓練を実施するとともに、警察及び岐阜県土木建築解体事業協同組合と連携した座屈建物救出訓練、JMAT及びDMATと連携したトンネル崩落多重衝突事故救出訓練、自衛隊、中津川市消防団、中津川建設協会及



び中部災害救助犬隊と連携した土砂埋没事故救出訓練を実施しました。また、無線中継車及び岐阜県中容量可搬衛星局による情報収集・配信訓練も実施しました。

《今後の課題》

- 訓練会場のスペースや訓練時間が制限されていたため、訓練事務局と指揮支援部隊が調整して部隊の運用先を事前に設定しました。しかし、指揮支援部隊の管理能力向上のためには、指揮支援部隊が県大隊の運用先を検討し、決定することが重要であることから、柔軟な部隊運用が行えるような訓練計画が必要だと思いました。
- 指揮支援部隊及び県大隊の技術向上や特殊車両の効率的な運用につながる訓練想定を検討しましたが、指揮支援部隊や特殊車両保有消防本部が抱える課題をきちんと把握して訓練に反映することが困難でした。
このため、訓練を計画する際は、緊急消防援助隊地域ブロック訓練検討委員による助言や、ブロック内の指揮支援隊及び特殊車両保有消防本部から課題を提言してもらうことが必要だと思いました。



中高層座屈建物救出訓練（馬籠ふれあい広場）



土砂埋没事故救出訓練（馬籠ふれあい広場）

（3）後方支援活動訓練

指揮支援部隊及び岐阜県消防相互応援隊は馬籠ふれあい広場において、県大隊は中津川公園において後方支援活動訓練を実施しました。

県大隊は県大隊長の管理の下、消防庁無償使用車両等を活用して給食訓練を行うとともに、待機中の車両及び資機材の保守管理を実施しました。

《今後の課題》

- 県大隊単位での後方支援活動、汚染・感染予防を考慮した活動、燃料補給車を活用した燃料補給訓練等を実施し、各県の取組を検証することで課題を把握することができました。

6. おわりに

今回の訓練では、平成29年度緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練実施上の重点推進事項を踏まえ、関係機関との連携強化、岐阜県東濃地域の災害特性に応じた訓練設定、消防庁無償使用車両の運用強化を重視して計画しました。

緊急消防援助隊の受援及び部隊運用、関係機関との連携活動等における課題が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練となりました。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練の開催に際しまして、多大な御協力を賜りました中部ブロック各県、各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
TEL: 03-5253-7527（直通）